勿凝学問 359

セーフティネットを張れば、人々がチャレンジングになるという話に？と感じる理由

2011 年 2 月 14 日
慶應義塾大学　商学部
教授　権丈善一

昨日あるところで、経済成長にはイノベーションが必要で、イノベーションが起こるには人々がチャレンジングであることが重要。人々がチャレンジングになるためにはセーフティネットを準備しておかなければならない――サーカスの空中ブランコのように――という話を聞く。これは、神野先生の論として、僕は何回かみたことがあるんだけど、いつも、？と思っていたわけだ。

そこで僕は、失業などを個人的責任と割り切れず、社会的責任も大きいと考えられる時代には、セーフティネットを張っておくことが必要で、それがあれば、社会全体で新技術の導入、経済の構造転換も容易になり、そのことが成長政策の一環となるという話をする（勿凝学問 352 参照）。

でっ、僕がいつも、人々がチャレンジングになるためにはセーフティネットが必要という話に？と感じるのは、社会の中で経済成長につながるほどのイノベーションを担う企業人というのは、シュンペーターが描写するように、いわば強力な個性と才覚の持ち主であって、彼らの行動が、雇用保険や生活保護の厚薄で影響を受けるとはあまり考えられないからなんだよな。

勿凝学問 61　イノベーションを促す政策とは――今日の論調とオリジナルなシュンペーター理論
イノベーションを実現する主体が企業家であるとシュンペーターは論じる。そして企業家の特性を次のように描写する。 ・・・ 国民の４分の１のものが、ある能力たとえばさしあたり経済上の創意に乏しく、このことが彼らの道徳的な全人格の貧困さに現れ、彼らはこの要因が問題となるような私的生活や職業生活の些細事においても憐れむべき役割しか演じていないとしよう。実際われわれはこのような類型の人間を知っているし、また義務に対する忠実さや専門知識や正確さにおいては抜群に優秀な使用人の多くのものですら、この種のものに属することを知っている。次は国民の「半分」のもの、すなわち「正常なもの」である。彼らは、すでに経験し尽くされた軌道においても単に「処理する」だけでなく、実際に「決断し」「遂行し」なけ

ればならない問題に対しても、うまくやっていくことができる。大部分の実業家はこの種の人間に属している。もしそうでなければ、彼らはけっしてその地位につくことはできなかったであろう。彼らの多くは個人的ないし遺伝的にテストされた淘汰の結果を表してさえいる。

司会の先生に、「先生もチャレンジングな人生を歩まれたわけですけど」と、発言が向けられた時に、その先生が、「セーフティネットがあったからチャレンジしたわけではありませんが（笑)」というようなことをおっしゃっていたから、司会者の先生も、僕と似たような違和感を覚えられたのかな（笑)。

そう言えば、僕はゼミで、気が向いたときに孫正義氏の 28 歳時の講演のテープを聴かせたりして遊んでいるんだけど、10 年ほど前、ある学生の感想に、「この、あまりにも僕らとかけ離れた人の学生時代の話を聴いて、僕は実業家になるのだけはやめようと決心した・・・」というのがあったな（笑)。